

第5次経営計画(平成26～28年度)

目指す姿(役割)

高度急性期病院

- ☆ 県民の健康を支え、切れ目のない医療を提供することを目的とした保健医療計画に位置付けられた、「基幹的な役割」を果たす。
- ☆ 重症度や緊急性が高く、難易度の高い疾患に対応できる病院としての機能を強化し、その役割を果たす。

《保健医療計画の位置づけ》

医療政策	位置付け
救 急	救命救急C
周産期・小児	総合周産期母子医療C
が ん	がん診療連携拠点病院
災 害	基幹災害拠点病院
へ き 地	へき地医療拠点病院
人材確保・育成	臨床研修指定病院



※保健医療計画～ひろしま未来チャレンジビジョンにおける「安心な暮らしづくり」を支える。

取組方針と重点的な取組事項

①県立病院の役割に応じた医療機能の強化と更なる患者サービスの向上

- 救急・成育・がん医療機能の強化
 - ✓脳・心臓疾患の受入拡大, ドクターヘリ事業への協力
 - ✓NICU増床(3床), 低出生体重児等の受入強化
 - ✓がんの集学的治療や低侵襲手術, 高精度放射線治療Cとの連携
- DPC II 群への参入
- 《追加》業務改善活動の本格実施

- 地域に必要な医療の提供
 - ✓急性期機能としての外科系の充実(手術・リハビリ)
 - ✓小児医療や二次救急の維持
- 地域包括ケアへの取組強化
 - ✓健(検)診や内視鏡検査による予防推進, 訪問看護の推進
 - ✓介護・福祉・行政等との連携ネットワーク構築
 - 《追加》地域包括ケア病床の運営

②医療人材の育成・派遣機能の強化

- 初期臨床研修医の確保・育成
- 病院実習の受入れや講師派遣等による医療・福祉人材の育成
- 中山間地域への医師派遣(診療援助等)

③災害時等においても継続的に医療を提供していくための危機管理対応力の強化

- 共通 ○東日本大震災の教訓を生かした災害対応マニュアルの改定
- 広島 ○非常用自家発電装置の増設
- 安芸津 ○耐震基準を満たさない建物の耐震化対策の検討

④経営力の強化, 医療需要を見据えた効率的な経営

- 共通 ○会計制度見直しへの対応
 - 診療報酬制度(改定)に対応した加算の取得
 - 地域医療機関との連携推進
- 広島 ○DPC II 群への参入

第5次経営計画の取組方針

地域の中核的病院

- ☆ 病気の予防, 治療, 在宅復帰, 在宅療養支援まで, 地域と一体となって地域住民の健康を支える, 地域包括ケアのモデルとなる病院。
- ☆ 保健医療計画に位置付けられた, 二次救急輪番等の一般急性期病院としての役割を果たす。

《保健医療計画の位置づけ》

医療政策	位置付け
救 急	救急告示医療機関
人材確保・育成	臨床研修協力施設



次期計画
(平成29～32年度)

これまでの成果や課題, 環境変化等を踏まえ, 次期計画において, 各病院は,

《論点1》
どのような「姿や役割」を目指すべきか。

目指す姿(役割)

P2, P3 右上, 新たな目指す姿(H32)を参照

また,
目指す姿(役割)を実現するために, 各病院は,

《論点2》
どのような事項に重点的に取り組むべきか。

取組の方向性や重点的な取組

左記, 現計画の取組方針と重点的な取組事項を参照

目指すべき姿とその取組 (1) 広島病院

第5次計画(H26~28)

⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒

第6次計画(H29~32)

目指す姿(H28)

- ☆ 県民の健康を支え、切れ目のない医療を提供することを目的とした保健医療計画の中に位置付けられた、「基幹的な役割」を果たす。
- ☆ 重症度や緊急性が高く、難易度の高い疾患に対応できる病院としての機能を強化し、その役割を果たす。

指標等

区分	項目	24年度	⇒	27年度
		実績	差分	目標
救急	救急車受入数	4,644件	(+732件)	5,376件
成育	NICU・GCU患者数	8,899人	(+201人)	9,100人
がん	がん患者数	3,356人	(+529人)	3,885人
DPC	DPC	Ⅲ群	—	—
経営	経常収支	+4.3億円	(+5.7億円)	+10億円

- **DPC** Ⅱ群(大学病院に準じる高度急性期病院)の認定
- **経営基盤** 医療需要を見据えた効率的な経営

ギャップ

現状・課題(H25当時)

(基幹的役割)

- **救急**～救急患者全体は年々増加、救急告示病院は減少傾向。医療需要が増加見込みの循環器系の受入体制が弱い。
- **成育**～出産年齢の高齢化、低出生体重児は横ばい・微増傾向。NICUは満床状態。
- **がん**～がん患者の増加や高齢化。早期回復を目指した集学的治療やチーム医療の推進が必要。

(高度急性期)

- **DPC**～多様な症例に幅広く対応。診療密度は低く、DPCⅢ群に留まる。

(経営)～経常収支・資金収支ともに黒字で、経営は改善基調。

取組

- **救急**～脳・心臓血管センター設置、救急車・ヘリ等受入体制強化
- **成育**～NICU3床増床、低出生体重児等の受入体制強化
- **がん**～5大がん地域連携パス推進、集学的治療、よろず相談所開設
- **DPC**～PT設置、在院日数短縮(標準化)、日帰り手術への移行
- **改善活動**～米国視察、業務改善(5S、TQM等)実施
- **経営**～人員の増、加算の取得、増収プロジェクト

成果と課題

指標等

項目	27年度	
	実績	評価
救急車受入数	5,049件	概ね順調
NICU・GCU患者数	★10,166人	順調
がん患者数	★4,809人	概ね順調
DPCⅡ群	★H28.4参入	順調
経常収支	+1.0億円	課題あり

- **改善活動**～満足度向上に繋がる取組が不十分。
- **経営基盤**～増収減益傾向で経営は悪化。

環境変化

- 高齢化の進展、医療の高度化、医療費の増大
- 診療報酬抑制基調(+消費税増税延期)
- 地域医療構想の策定(広島県はH28.3)
- 基幹病院の連携協定締結(H28.6)

新たな目指す姿(H32)

- ☆ 県民の健康を支え、切れ目のない医療を提供することを目的とした保健医療計画の中に位置付けられた、「基幹的な役割」を果たす。
- ☆ 重症度や緊急性が高く、難易度の高い、**高度急性期医療を中心とした病院としての役割**を果たす。

目指す姿を実現するための“具体的な取組”

現状

□ (基幹的役割)

- 救急、成育、がんなど、県の基幹的役割は概ね順調。

□ (高度急性期)

- 特色ある機能が少ない。
- 医療機能の分化・連携の姿が明確になっていない。
- 診療単価が低位で、効率性・生産性の低さが伺える。
- DPCⅡ群の維持。

□ (経営)

- 環境変化を見据えた、一層の経営改善が必要。

目指すべき姿とその取組 (2) 安芸津病院

第5次計画(H26～28)

⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒

第6次計画(H29～32)

目指す姿(H28)

- ☆ 病気の予防, 治療, 在宅復帰, 在宅療養支援まで, 地域と一体となって地域住民の健康を支える地域包括ケアのモデルとなる病院。
- ☆ 保健医療計画の中に位置付けられた, 二次救急輪番等の一般急性期病院としての役割を果たす。

指標等

区分	項目	24年度		27年度
		実績	⇒ 差分	
包括ケア	検(健)診件数	742件	(+722件)	1,464件
	内視鏡検査件数	1,529件	(+907件)	2,436件
	訪問看護件数	1,596件	(+84件)	1,680件
急性期	手術件数	307件	(53件)	360件
	救急車受入件数	318件	—	—
経営	経常収支	▲1.5億円	(+2.6億円)	+1.1億円

- **経営基盤** 持続的に運営できる経営基盤の確立

ギャップ

現状・課題(H25当時)

(地域包括ケア)

- **機能**～地域ニーズを踏まえ, 訪問看護を取り組み始める。
- **成功例**～検診事業や病診連携の強化, 専門性の高い分野のセンター化などにより, 安定経営に成功した先行事例あり。

(急性期・ニーズ)

- **機能**～地区の中核病院。主な機能は急性期から回復期まで。
- **需要**～診療圏域内の将来的な医療需要は大幅に増加しない。慢性期的な需要の割合が増加する見込み。

(耐震)～耐震性のない建物がある。(旧棟)

(経営)～収支改善基調ではあるが経常・資金収支はともに赤字。持続可能な経営基盤の確立が必要。

取組

● 地域包括ケアへの取組強化

- ・検診受入強化, 内視鏡検査ステーション設置
- ・訪問看護等充実
- ・地域包括ケア病床の導入

● 一般急性期病院としての医療の提供

- ・圏域で強みを持つ整形外科の機能発揮
- ・小児医療や二次輪番救急体制の維持

● 耐震化への対応

- ・医療需要や, 環境分析と連動した耐震建替の検討

● 経営

- ・リハビリの充実, 加算の取得, 費用の合理化

成果と課題

● 指標等

項目	27年度	
	実績	評価
検(健)診件数	★ 2,341件	順調
内視鏡検査件数	1,783件	課題あり
訪問看護件数	1,408件	課題あり
手術件数	353件	概ね順調
救急車受入件数	367件	概ね順調
経常収支	▲0.6億円	課題あり

- **地域包括ケア**～内視鏡検査や訪問看護は低迷しており, 成功モデルを目指した取組が不十分。
- **経営基盤**～減収減益で経営は悪化に転じる。

環境変化

- 高齢化の進展, 医療の高度化, 医療費の増大
- 診療報酬抑制基調(+消費税増税延期)
- 地域医療構想の策定(広島県はH28.3)
- 国は生活習慣病の重症化予防取組自治体の拡大や, 特定健診受診率の向上など, 健康に関する目標値を設定

新たな目指す姿(H32)

- ☆ **予防医療強化**を含めて, 地域住民の健康と暮らしを支える, 中山間地域の地域包括ケアの拠点モデルとなる病院。

- ☆ 保健医療計画の中に位置付けられた, 二次救急輪番制病院などの役割を果たす。

目指す姿を実現するための
“具体的な取組”

現状

□ (地域包括ケア)

- ・ 予防・早期発見に有効な内視鏡検査の拡大や訪問看護など, 医療と介護が一体となった地域包括ケアの拠点モデルの構築が不十分

□ (急性期・ニーズ)

- ・ 地区の入院・外来ニーズは縮小, 今後も縮小見込み。
- ・ 周辺診療所の医療提供体制は縮小の懸念。

□ (耐震)

- ・ 経済性と機能性を考慮した一部建替・耐震化が必要。

□ (経営)

- ・ 環境変化を見据えた, 一層の経営改善が必要。

現経営計画における主な課題（資料2、資料3からの抜粋）

第5次経営計画の取組方針	広島病院	安芸津病院
<p>① 県立病院の役割に応じた医療機能の強化と更なる患者サービスの向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓【救急】・総合的(二次・三次救急)な救急医療提供体制の構築 ✓【成育】・正常分娩の増加 <ul style="list-style-type: none"> ・NICU患者の退院先確保 ✓【がん】・リニアックの老朽化 ✓【高度急性期】・特色ある機能が少ない <ul style="list-style-type: none"> ・DPCⅡ群の維持 ✓【その他】 <ul style="list-style-type: none"> ・後方病院との連携強化(HMネット接続含む) ・患者満足度の向上につながる改善活動 ・病院取組の積極発信(広報機能強化) <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓「強みの機能」(外科・内科が連携した消化器治療, GCAP・レミケードなどの特殊治療など)や「地域包括ケア病床」, 新たな取組の「院内ディケア」などの, 地域に向けた効果的な広報 ✓ 周辺急性期病院から地域包括ケア病床への患者受入れ ✓ 「治し支える医療」に向けて, 医療機関, 介護施設等と更に連携強化した医療提供体制の構築 <p style="text-align: right;">など</p>
<p>② 医療人材の育成・派遣機能の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新専門医制度における大学や他の基幹施設等との連携・調整 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 泌尿器科など, 医師退職後の後任医師の確保 <p style="text-align: right;">など</p>
<p>③ 災害時等においても継続的に医療を提供していくための危機管理対応力の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ DMAT隊の人材確保・育成, 災害対策訓練の継続実施 ✓ 災害に備えた施設の改修 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 経済性と機能性を考慮した, 一部建替・耐震化
<p>④ 経営力の強化, 医療需要を見据えた効率的な経営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 増収減益で経営は悪化傾向 ✓ 高額医療機器や電子カルテ等の計画的な更新 ✓ 職員の効率的な配置や業務見直しによる人件費比率の縮減, 生産性の向上 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 減収減益で経営は悪化に転じる ✓ 地域の入院・外来ニーズの縮小 ✓ 周辺診療所の医療提供体制縮小の懸念 <p style="text-align: right;">など</p>